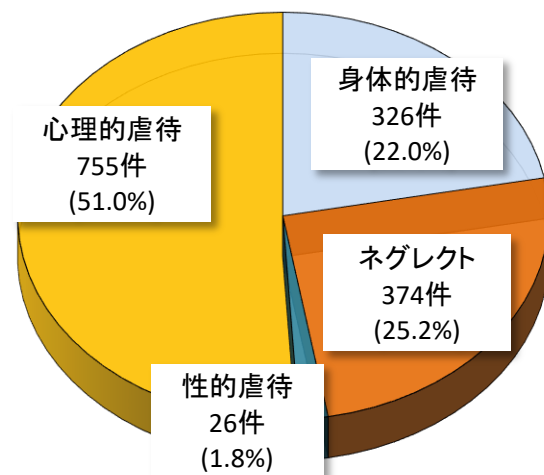
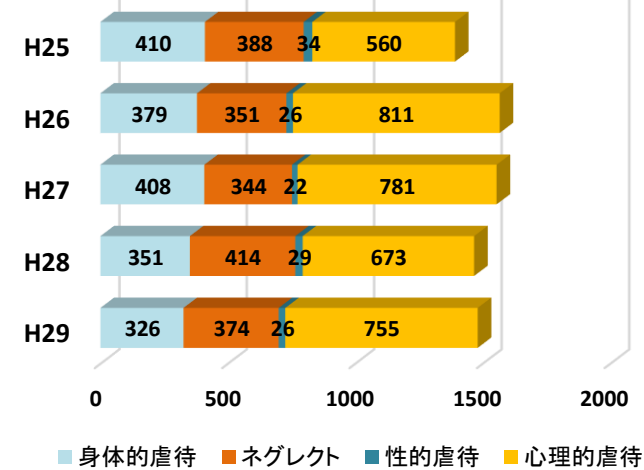


虐待の種類

H29種類別件数内訳



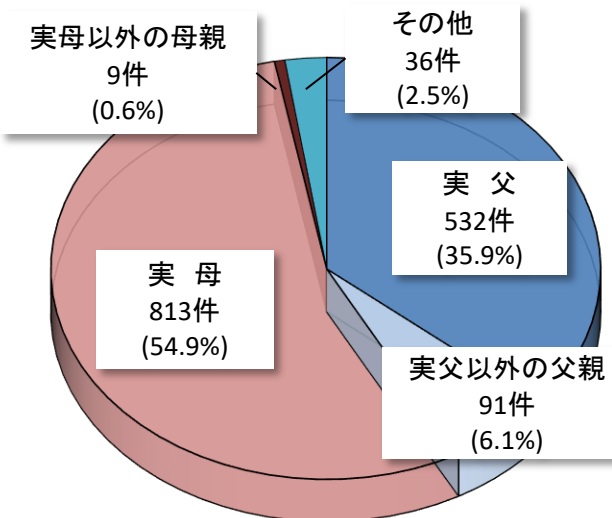
種類別件数の推移



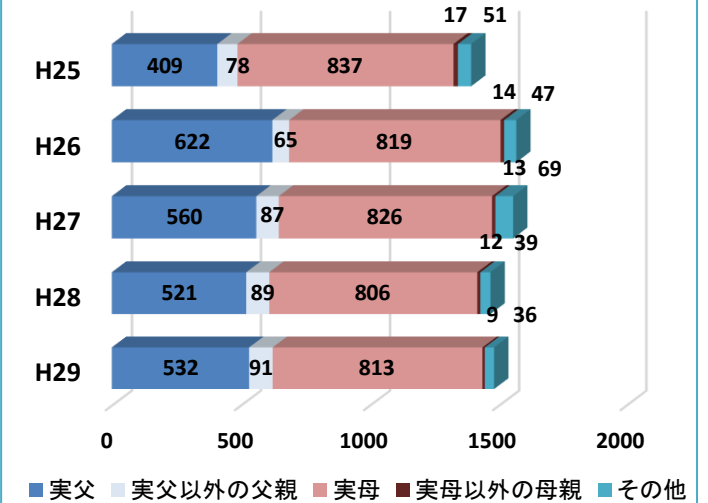
「心理的虐待」が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。
前年度と比較すると「心理的虐待」のみが増加傾向を示しており、82件増（12.2%増）となり、種類別件数の半数以上（51%）を占める状況となっている。

主な虐待者

H29主な虐待者の件数内訳



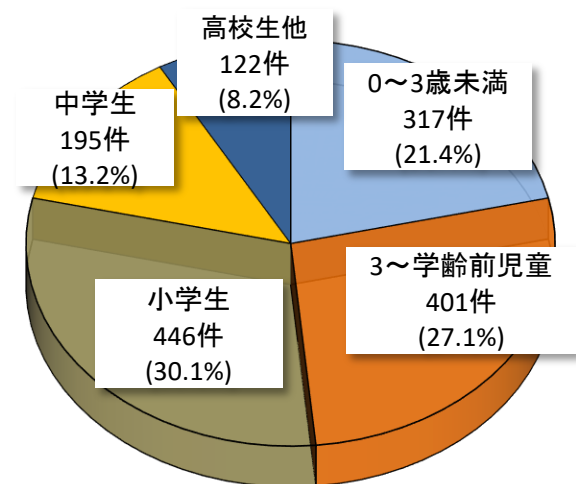
主な虐待者の推移



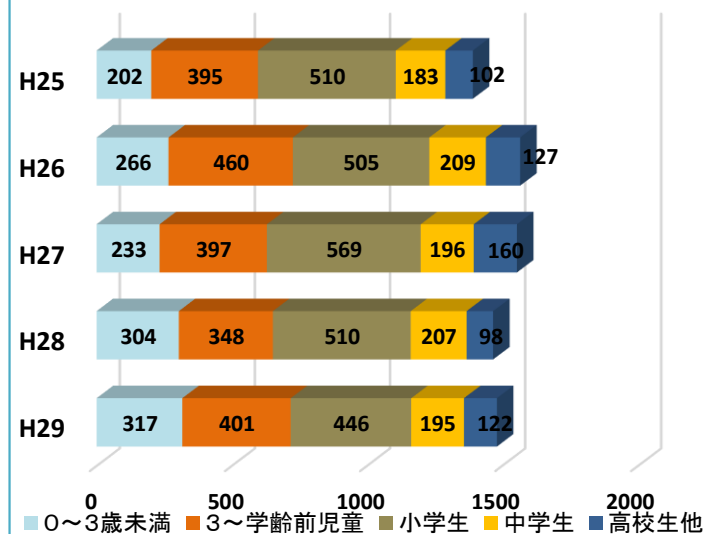
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。
前年度と比べて割合に大きな変化はなく、「実親」のうち「実母」が占める割合が最も多い。

被虐待児の年齢

H29年齢別件数内訳



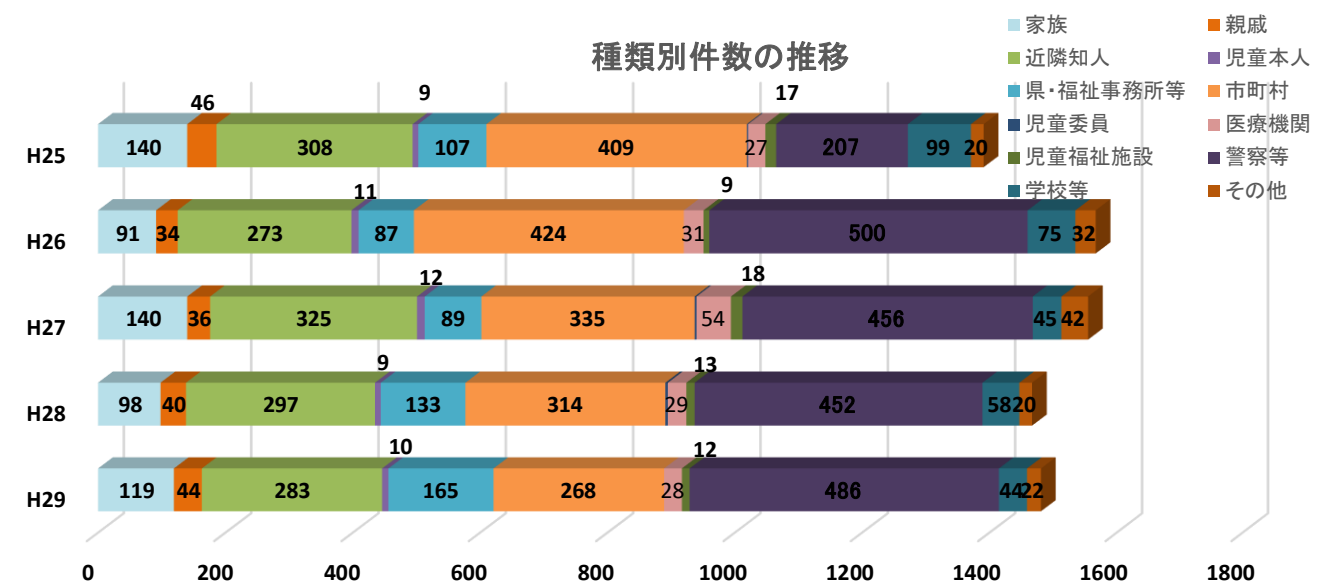
年齢別件数の推移



「0歳～就学前」の被虐待児の割合が全体の約半数を占める状況となっている。特に「3～学齢前児童」の児童数が、53件増（15.2%増）となっている。
また前年度と比べ、「小学生」「中学生」の件数が減少している一方で、「高校生他」の児童が24件増（24.5%増）となり、増加率が高い。

虐待通告の経路

種類別件数の推移



関係機関からの通告では「警察等」及び「近隣知人」が多い。
「市町村」からの通告は46件減（14.6%減）となっているが、「家族」からの通告件数等に増加がみられる。